

1 山がちな日本の地形

○地震や火山が多い日本列島

(**造山帯**)とは、(**山地**)や(**山脈**)が連なっている所のこと

→高く険しい山々が見られ、地震などが多く、火山活動も活発

※(**山地**)とは、いくつかの山がまとまっている所のこと。(**山脈**)とは、山が特に細長く連なっている地域のこと

[(**アルプス・ヒマラヤ造山帯** ***):アルプス山脈やヒマラヤ山脈、インドネシアの島々へ続く造山帯

[(**環太平洋造山帯** ***):ロッキー山脈やアンデス山脈、ニュージーランドなど太平洋を取り囲むように連なる造山帯。日本列島も含まれる

プレートとは、地球の表面を覆う十数枚の厚さ100kmほどの岩盤のこと

→プレートは一年間に数cmほど動いており、プレートどうしがぶつかったり、ずれ動いたりする

○日本列島の背骨をなす山地

日本の面積の割合:国土の大部分は山がちで、山地の割合が75%ある

＜日本の国土面積の割合＞

山地 75%	平野 25%	
	低地 14%	台地 11%

(**日本アルプス** ***)とは、本州中央部に位置する飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の総称のこと

→日本アルプスの東側には(**フォッサマグナ** **)がある

※(**フォッサマグナ**)とは、本州の中央部を南北に横断する地溝帯のこと。ラテン語で「大きな溝」という意味。

西の縁は糸魚川市(新潟県)と静岡市(静岡県)を結ぶ